

# グループホーム 玄海の森

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	地域密着型サービス方針・方向性を理解し、地域の環境や方々と関わりながら生活していくことを目標に、「自分らしくのんびりと 共に過ごす 豊かな日々」という理念を作り上げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	理念を職員全員で共有できるように玄関前に掲げている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	運営推進会議の時に地域の方々には説明を行い、家族の方へは誓約書を交わす際に説明を行っている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	自治会に参加し、ホームの行事に参加していただけるように声をかけている。またチラシを配布し、いつでも立ち寄っていただける雰囲気作りをしている。		今後も行事の声かけ・チラシ等を配り、日常のお付き合いをしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	海岸清掃や地域の祇園祭りに積極的に入居者と共に参加している。近隣の小学校の児童クラブの子供達に今年は七夕飾りに参加していただいた。		

## グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>入居申し込み・見学・来訪者が来られた際には、ゆっくりと話せる時間を作っている。</p>		<p>グループホームとして、認知症ケアについての相談を気軽に受けることができるよう考えていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価・外部評価の重要性を理解し、職員個々の考えで自由に記入してもらい普段見えていない点がみえた。</p>		<p>改善すべき点を話し合い改善していきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では入居者状況・サービスの報告の他、毎回テーマを決めて紹介や話し合いをしている。会議での意見や助言を重く受け止め安心して入居者が暮らしていただけるホームを目指している。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護サービス相談員に月に2回、来ていただき交流を図っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者が外部研修・グループ内会議において学び、資料をそろえている。必要が考えられる入居者の家族には情報提供を行っている。</p>		<p>施設内で研修を行い全職員に伝えていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待がおこることのないよう日々の業務・月に1度のミーティングの際に入居者に接する態度や介護について話し合っている。また日々のケアの中で小さな内出血等の変化に気付くように職員内で連携を図っている。</p>		<p>マニュアルは作成しているが勉強会までは至っていない。今度勉強会を行っていきたい。</p>

## グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	入居時に十分な説明を書面・面談により行っている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	入居者からの意見や希望が引き出しやすいよう対話の時間を多く作るように心がけている。また小さな事でも記録として残し、意向に沿えるようにケアプランを作成している。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	月に1度、請求書を送る際に写真と共に近状報告を行っている。また面会時に状況報告を行い入居者の生活を知っていただく為にアルバムを見ていただいている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご意見箱を設置しており、契約書に市町村・国民保険連合会の苦情窓口の連絡先を記載している。家族の意見には傾聴し対応している。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月のミーティングや日々の業務の中で意見交換をし業務の見直しをしている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	一日3人の出勤者を確保できるようにしており、大きな行事を行う際には出勤者を増やす等の調整を行っている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	2ユニット間の職員の移動を行っている。ホームの全入居者に対応できるようにユニット同士の交流を図り顔馴染の関係になれるようにしている。		

## グループホーム 玄海の森

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している</p>	採用にあたっては性別・年齢に関わらず採用している。勤務の調整ができる時には外部研修に参加している。	
20	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	日々の業務中での言葉遣いやケアが入居者の尊厳を犯している場面が見られた際には注意をしている。	
21	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	入社時に独自に作成した認知症マニュアル・緊急時マニュアルを個々に配布し勉強会を行っている。またミーティングや業務の中で助言・指導を行っている。	
22	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	外部研修の参加時に同業者との交流を図っている。	今後、交流を持てた同業者との相互見学や勉強会へつなげていきたい。
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	食事会・休憩時間などを利用し職員間の交流を図り、何でも話し合える雰囲気を作っている。また月に1度は2連休を取りリフレッシュできるようにしている。	
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員の意見を可能な限り業務に取り入れていき、変化していく喜びを感じてもらい向上心を持てるように働きかけている。	

グループホーム 玄海の森

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には本人と面談を行い、会話する時間を多くとり本人の意向を聞きだす努力をして共に考えるようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時には家族との交流を十分にとり入居に対しての不安・要望などを早期に解決している。		

## グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話を聞き「今」どのようなサービスが必要かを話し合っている。また、他事業所の特徴等も説明している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と面談後に体験入居をしていただき、その時の状況を家族に報告し、安心して利用できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔からの風習や家事の中での知恵を教えていただき、実践している。また、行事の時の食事メニューは入居者の方々の意向を聞き共に決めている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの日々の状況を報告し、共に入居者のことを考えることで家族と共にケアしていけるように援助をお願いしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生活歴や家族との会話を記録として残し、今までの生活状況を把握し、各家族がより良い形で関わられるようにしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外食時には馴染みの場所に行き、本人から昔の話等を伺っている。また、関連施設を利用していた方は散歩の際に訪ね、馴染みの関係を継続できるようにしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全員での活動を通じ、交流を深めている。普段かかわりの少ない方々には少人数での外出・散歩などを通じ、交流が図られるようにしている。		

## グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在、契約を終了した方はいない。 入院した際には、本人の体調に配慮しながら面会に行っている。		退居後も相談を受けたり面会へ行ったり等関係の維持に努めたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話する時間を十分に持ち、ひとり一人の気持ちが引き出せるように努めている。また、記録等に残し、全職員が把握し希望に添えるように援助している。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には生活歴をお聞きし、生活歴を参考としてご本人から色々と教えていただけるようにしている。また、家族からも意見を頂いている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ひとり一人の生活リズムや希望を把握し、有する力が継続できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を受けると共に、職員間の気付きや意見をプランに反映している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行い、介護度の変更時・退院時・入居者の変化に応じ介護計画書の変更を検討している。		

## グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者が伝えた言葉・行動や、食事摂取量・排泄状況・バイタルを記録として残し、情報の共有をしている。また、介護計画書の作成にも活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じ、病院受診や外出等の準備や支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる唄や踊り、地域小学校の慰問を受けている。 消防署・民生委員との意見交換を行っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の希望に応じ、併設・隣接施設の行事に参加させていただいている。また、併設のデイサービスでの大浴場を週に1回利用している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議以外での関わりは持っていない。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族からの希望時には協力医療機関の病院受診をスタッフがやっている。家族が病院受診を行っている入居者に関しては、状態報告を行うと共に職員が付き添う・情報提供書を持って行ってもらっている。		



## グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	状態の悪化等により、必要性のある入居者は専門医のいる病院へ受診するようにすすめており、家族への相談・支援をしている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接・併設の同グループ施設に看護師が勤務しており、相談にのっていただく等の援助を受けている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には状態報告をこまめに行い、入居者が不安なく入院できるように情報提供をしている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態報告を家族に行い、今後の対応方針について話し合い、かかりつけ医への報告も行っている。終末期に向けての取り組みはできていない。		重度化・終末期に向けた取り組みを今後も考えていきたい。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合でも共に過ごしていけるように職員間で入居者ひとり一人の対応を話し合っている。容態が悪化した際の協力医療機関との連携は図れている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	見学・体験入居・家族からの情報収集を十分に行い、入居者には職員が密に接することにより、顔を早く覚えていただき安心して暮らしていただけるように努めている。		

## グループホーム 玄海の森

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
52	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録等はスタッフルームに置き、ドアに鍵をかけ外部の方に見られないようにしている。尊厳を持って言葉かけを行うように職員間でのチェックをしている。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常の中で入浴の有無など自己決定できる場面を多く作るように心がけている。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の流れは作っているが、本人の体調や希望を受け止め、希望に沿った支援ができるようにしている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>家族の希望によりホーム側で決めた美容院に来ていただき、カット・カラー時には本人の意向を自分で伝えてもらうようにしている。外出時にはお化粧品を行ったり入居者と共に洋服を選ぶ等のおしゃれができるように支援している。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材の固さ・きざみなど一人ひとりの好みや状態に合わせて提供し、食事を作る風景を見ていただき、味見をする・盛り付けを行う等で食事作りに参加していただいている。</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>食事以外の飲み物は、入居者の意向を聞き提供している。お酒は家族の希望もあり、習慣として提供しておらず行事の際に年に数回、出している。</p>	

## グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツ使用者が多いも、各自の排泄パターンを把握でき汚染による不快感を感じないように排泄チェック表を用いたトイレ誘導を行っている。また、声かけを小さな声で行う等の配慮を行っている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めずに午後からの入浴とし、各自の希望を伺い最低3日に1度は入浴してもらえるように支援している。また、週に1度、同施設デイサービスの大浴場での入浴・入浴剤などを使用し、気分転換を図っている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間は決めずに眠気を感じているときに居室へ誘導している。安眠できるように日中の活動を促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に合わせ、唄・編み物・製作・家事等を役割を作らずに、その日の気分に合わせて行っていただいている。力のある入居者の方には毎朝のゴミ出しを行ってもらい役割を持っていただいている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができていない方が多く、家族同意の下に職員側での管理を行っている。希望に応じ、お小遣いの確認を行っていただいている。		買い物に行った際にはご自分で支払いを行える援助を行いたい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、テラス・玄関前ベンチで過ごしたりし、希望に応じてホーム周辺・海が見える場所までの散歩やドライブ等の活動を行っている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1度は外食や外出の機会を設け、行きたい場所や食べたいものを聞き援助している。 年に2度は家族に参加を呼びかけ食事会を開いている。		

## グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望が聞かれた際には、スタッフが援助をし電話をおつなぎするようにしている。また、年賀状は本人の希望に合わせて作成している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を決めてずに、ゆっくりとすごせるように援助している。また、面会場所は決めておらず自室に行かれる方やリビングにて他入居者とお話をされる・共に活動に参加される方がおられ柔軟に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を施設内で行い、拘束することで起きる弊害について学んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間のみかけており、日中に鍵をかけることはなく自由に入出りできる空間を作っている。玄関外に出ようとす入居者には散歩を行い気分転換を図っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が常にリビングに一人はいるように職員間での声かけの徹底を図り、入居者の居場所確認を常に行っている。危険のないよう見守りを随時行える環境作りに取り組んでいる。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤については職員側での管理としている。包丁などは現在は鍵のない場所に保管しているため、台所に入居者が出入りしている際には職員が見守るようにしている。夜間は義歯・眼鏡は預かりとしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員間で事故の怖さや命の重さ、事故による弊害を常に意識している。ヒヤリハットやケアプランチェック表を用い、入居者個々の行動パターンの把握に努めている。		

## グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入社時に緊急マニュアルを用い勉強会を行っておりホーム内にも1部用意しすぐに見れるようにしている。申し送りやミーティングの際には入居者個々に合わせた急変の可能性についても話し合っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署・消防用設備点検会社の協力を得て、火災報知器の取り扱いの説明や昼・夜を想定した避難訓練・消火訓練を行っている。また、緊急時には関連施設の協力を得られるように体制を整えている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	抑制のない生活を送るために起こり得るリスク等に関しては入居時や現状報告を行う際に家族に伝えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	小さな変化にも気を配り、職員に伝達している。体調の悪化や異変の持続が見られた際には家族に連絡すると共に病院受診を早期に行っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は職員が見やすいようにカルテにファイルし、効能についても理解できるよう伝達し努力している。投薬もれないように薬に名前・日付を書くようにしている。状態の変化が薬の副作用によっても起こることを理解している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給が確実にいえるようにチェック表をつけている。便秘気味の方には長距離の散歩や階段昇降など体をよく動かしていただけるようにしている。		下剤に頼ることなくスムーズに排便できるように食材の工夫などを行っていきたい。
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時・夕食後の口腔ケアを行い、歯痛など口腔状態の悪化が考えられる方は毎食の口腔ケアを行っている。声かけや介助など個々に合わせて行い、誤えん性肺炎にならないように気をつけている。		

## グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接施設の管理栄養士作成による栄養バランスのとれた献立表の下での食事の提供を行っている。一人ひとりに合わせた食事形態にして提供している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルがあり、手洗いうがいを実施している。家族同意を得て、毎年インフルエンザの予防接種を行っている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事作りにあたり、調理器具の熱消毒・布巾の消毒・手洗いの強化を行い、食材については新鮮な物を使用している。古い食材がたまらないように冷蔵庫の掃除は週に1度行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはベンチや花を飾り、家庭的な雰囲気を作っている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやCDの音は、難聴の方がいるために大きくなりやすいも、他入居者にとってうるさくなりすぎないように配慮している。また、季節感を感じていただけるようにその季節にあった壁面を作成している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファー・食卓・和室があり、その時の気分により自由に座られてお話をしている。他ユニットにも出入りが自由であり、他ユニットの入居者に自ら会いに行く姿も見られている。		

## グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていたものを持ってきていただくようにしており、本人が好んでいるぬいぐるみや写真などを飾り居心地よく感じていただけるようにしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気を設備しており、匂いには気をつけている。また、冬場でも短時間の換気を心がけている。室内温度については、季節感を感じてもらうためにも外気との差が大きくなり過ぎないように気をつけ入居者側での温度調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	和室以外は全面バリアフリーとなっており、廊下の広さも車椅子が交差するのに十分な広さとなっている。トイレは3箇所あり、2箇所は車椅子の方でも使用できる広さとなっており、手すりも完備されている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	どの姿勢だったら行えるか？どのような声かけだったら理解できるか？などを常に考え、混乱や失敗なく安心して生活できるように努めている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭の散歩やテラスと玄関ベンチでのおやつ・昼食・日光浴を行う中で鳥の声を聞き、季節感を感じていただいている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホーム内に閉じこもる事のないように週に1度は出かける機会を作っている。

重度化してもホームで過ごしていけるように、個々の状態をスタッフが認識でき対応で